

令和元年度宮城県 9. 1 総合防災訓練に参加しました (2019/9/1)

テーマ：防災訓練、防災の日、災害医療、災害派遣医療チーム (DMAT)
場所：第二仙台北部中核工業団地及び大衡小学校 等

2019年9月1日(防災の日)に第二仙台北部中核工業団地及び大衡小学校において令和元年度宮城県9.1総合防災訓練が開催され、稲葉洋平助教(災害医学研究部門 災害放射線医学分野)が東北大学病院DMAT隊員として参加しました。DMAT(Disaster Medical Assistance Team; 災害派遣医療チーム)は、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チームで、阪神淡路大震災を契機に設立されました。1チーム医師1名・看護師2名・業務調整員1名の計4名を基本単位とし、本部活動、広域医療搬送、病院支援、地域医療搬送、現場活動等を主な活動とします。

今年の宮城県9.1総合防災訓練は、大衡村が主催となり、国、県、大衡村及び防災関係機関等98機関が大集結し救助・救出を展開しました。「災害から守れ、自分で、家族で、地域で」をテーマとしており、自助及び共助の考えが根付くよう、大衡小・中学校全児童・生徒も参加するこれまでで最大規模の訓練でした。

救急救護訓練エリアでは、東北大学病院の他、仙台赤十字病院、仙台オープン病院、大崎市民病院、公立黒川病院のDMATが参集し、多数負傷者に対する救護所内でのトリアージおよび救護を展開しました。稲葉助教は、業務調整員(ロジスティクス; 通称ロジ)として重症負傷者救護所(赤エリア)内にて傷病者一覧表を作成して患者情報を管理する任務を行いました。赤救護所リーダーの医師と情報共有し、安定化した重傷患者をどこの医療機関へ搬送するか搬送優先順位、搬送先病院、搬送手段を決定し、円滑に傷病者搬送できるように努めた。DMAT隊員として厚労省に登録されてから初めての訓練でした。来週は、政府による大規模地震時医療活動訓練にも参加予定です。今後の実動に備えて、今回の訓練で得た知識や技能を維持できるように日々の訓練に精進したいと思います。



赤エリア救護所



訓練参加者(閉会式)